

BNCコネクタ新嵌合確認

BNCコネクタの接続状態



立井オリジナル
識別方式採用の
BNCコネクタ
(BNCP-K シリーズ)



当社製旧タイプ
BNCコネクタ

斜め後方から見た場合、どちらのコネクタも嵌合位置(状態)の確認ができます。

斜め後方から見た場合



真後ろ方向から見た場合



<BNCP-Kシリーズ>
真後ろ方向から見た場合でも容易に嵌合位置(状態)がハッキリ確認が可能です。

<旧タイプBNC>
従来のコネクタ側面での嵌合位置識別の場合、真後ろ方向から見た場合、殆ど嵌合位置(状態)の確認ができません。

放送局内では無数のケーブル、コネクタで機器間接続が行われていますが、これらのケーブルが確実に接続されて初めてシステムが正常に動作します。万が一コネクタの嵌合不良が発生すれば、放送事故につながってしまいます。

当社の同軸ケーブルTCXシリーズ専用開発したBNCコネクタに**当社独自の識別シール**を貼り付けることで従来より更に確実に嵌合確認できるようにしました。

従来のコネクタ側面の識別ラインではコネクタの斜め後方から嵌合確認はできましたが、真後ろ方向からの嵌合確認ができず、その機能が十分果たされない状況にありました。例えば高密度に結線されたラック内の殆どのコネクタは真後ろ方向からしか見えず、斜め後方からの嵌合確認は実質不可能な状況でした。

当社BNCコネクタ(**BNCP-K シリーズ**)は嵌合の**斜め後方と真後ろ方向のどちらから見ても画期的に嵌合確認しやすく**できています。更に識別マーク色はシリーズ毎に統一し、コネクタ品番だけでなく適合ケーブルも印刷した仕様になっており、実際のコネクタ加工で異なるサイズのコネクタの混同を極力さけ、適合ケーブルも直ぐに分かる様に配慮しました。識別シールの有無、マーク色の詳細に関しては19ページの一覧表をご覧ください。

(注意) ロック位置の確認はあくまで目安ですので、コネクタ接続の最終嵌合確認は手または工具での作業で確実に行ってください。

圧着タイプBNCコネクタの信頼性向上

3G-SDI、HD-SDI伝送用としてVSWR特性面、機械的構造面で優れた高い信頼性を誇るBNCコネクタ「BNCP-Kシリーズ」を当社同軸ケーブル「TCXシリーズ専用」として発売してきました。

基本性能としては、3GHz以下でVSWRが 1.1 以下を実現しています。(一部製品を除く) もちろんVSWRによる低反射特性の実現だけでなく、中心コンタクトが微動だにせず確実に固定される独自のテフロン絶縁体構造を全面採用しております。

実際に中心コンタクトの形状を比較すると、放送局内で使用されている汎用品と比較してテフロン絶縁体で中心コンタクトを固定するくびれ部の範囲がきわめて広く、確実に固定出来ている事が分かります。更に中心コンタクトの圧着部分(写真コンタクトの右側部分)も完全にテフロン絶縁体で固定する構造としております。この様に中心コンタクトの先端部分以外をテフロン絶縁体で封じ込める様な構造とする事で中心コンタクトが全く動かない様に工夫されております。この結果、コネクタ接続時のコンタクト接続が飛躍的に安定し、伝送傷害を防止致します。

中心コンタクト形状比較



BNCP-Kシリーズ

汎用品の約2.3 倍の広範囲をテフロン絶縁体で固定



ロック構造
この構造によりテフロン絶縁体にロック固定される。

更にケーブルの導体へ圧着する部分も完全にテフロン絶縁体で固定する構造



放送用汎用品(例)

放送用汎用品ではこの範囲しかテフロン絶縁体で固定しない



ロック構造
この構造によりテフロン絶縁体にロック固定される。

くびれ部分以外は保持されていない

くびれ部

また、中心コンタクトのロック構造において、中心コンタクトをコネクタ本体へ挿入した際の「カチッ」とした感触(クリック感)がハッキリ分かり、且つ確実にロックがかかる様に上記の円錐状に張り出している部分の角度と大きさを最適化した独自構造を持たせております。

実際の挿入時に中心コンタクトがテフロン絶縁体を通過しているときは抵抗感があり、円錐部分がテフロン絶縁体から出た瞬間に抵抗感がなくなりロックがかかる為、はっきりとロックがなされた時のクリック感が分かる様になっております。